



名筆・佐々木志頭磨(一)

地域史研究者
三善貞司

一字に魂を込め、奔放な筆の修練に励む七兵衛

メール全盛時代です。手紙など書く人は、ほとんどいなくなりました。まして筆で文字を書く習慣は化石になってしまい、せいぜい小・中学校の宿題だったぐらいしか想い出はないでしょう。

たまに現代書道展に行きますと、絵か文字かさっぱり区別がつかぬ。なかには墨の壺を紙の上でひっくり返したのか、猫の足に墨をつけて走り回らせたのか・・・と思われる変てこな書が、金賞になっています。解説のパンフには屁理屈が並べてありますが、あほらしくなっています。

昔の方はお上手です。日本の文化の根源は、「書」にあると言っていいほどです。それで今号からしばらく大坂で活躍した書道の名人たちを紹介します。

名人といえば、誰もが小野道風とみちかぜや弘法大師を思い浮かべますね。ところがそれ以上だと評判になったのが、佐々木志頭磨しづまです。風変わりな名人気質の持ち主だったため、エピソードも多い人物です。

彼は元和5年(1619)、京都の書家佐々木専念の長男に生まれました。通称七兵衛。10歳のとき父専念が病死、しつかり者の姉しづが育て、「佐々木流書道を継ぐのはお前しかおらぬ。がんばりなさい」と、毎日お尻をひっぱたいて勉強させます。

そのせいか姉弟げんかばかり。とうとう無理に筆を持たせようとする姉を押さえつけた七兵衛は、姉の顔をまつ黒に墨で塗りつぶすほどの不仲となります。しかし偉くなつてから彼は、雅号を志頭磨(私の書は姉しづによって磨かれたとの意味)とつけていますから、心の中では姉に感謝していたのかも知れません。

大きくなると七兵衛はますます姉に反抗し、怠けるどころか遊興にふけり、「字なんか読めたらええ。わざと分りにくい字を書いているやつには、腹がたつ」とひねくれます。

すっかり手を焼いた姉しづは、亡父の知り合いの賀茂神社神職で「賀茂流」の書家藤木敦直あつなおに泣きつきました。彼は朝廷の祐筆ゆうひつ(公用の文書を書く役職)も勤めた名人です。

気の毒になつて七兵衛をひきとつてくれましたが、「字は教わるものではない。自分で好きなように書け」といったきりそばを向き、大きな竹ぼうきを与えて毎日神苑しんえん(神社の庭園)を清掃するよう命じました。

広い神苑です。玉砂利を清めるだけでも重労働、何度掃いてもすぐ落葉がたまります。あほらしくなつてサボっていると、力持ちの園丁えんてい(庭の手入れをする職人)がががいじめにして、力づくで竹ぼうきを持たせます。やけくそになつて竹ぼうきを振り回しているうちに、蛙の子は蛙、いつしかほうきで白砂に字を書いては消し、消しては書くいたずらを

楽しむようになりません。志頭磨の書が太くて大きいのは、出発が七兵衛時代のこのいたずらにあつたからです。

ある日、敦直は竹ぼうきをとりあげ、紙と筆を持たせ、本格的な賀茂流書道の教授を始めました。そのきびしいこと、きびしいこと。午前3時にたたきおこし、漢字1字を百回書けと命じます。そのなかに敦直の気に入った字がひとつもないときは、「七兵衛、お前手を抜いたな。どれにも魂がこもっておらぬ」と叱りつけ、夕食まで食事を与えませんでした。反抗するとあの園丁がやってきて、縛りあげます。

汗と涙を流しながら、やっと百字のうち10字ほど合格するようになると敦直は、明(みん)14世紀ごろの中国の王朝(時代)にできた『玄抄類摘』(当時の書法を研究したもつとも権威のある書物)を渡し、「これからはこれを手本に独学だ。さあ、なにをぐずぐずしてやる。出て行け!」と、賀茂神社から追い出しました。

それからは本当に独学です。学んだ師匠はひとりもないし、どこでどう暮らしていたかもさっぱりわかりません。

40歳近くになった七兵衛は、佐々木志頭磨と名乗り、大坂に来て書道の塾を開きます。ただし初めははやらなかつたらしく、各地に彼に関するエピソードがかなり残っていますから、放浪の旅を重ねたようです。そのひとつを紹介しましょう。

江戸に滞在していたころ、幕府の重役が「將軍さまは書がお好みじゃ。わしがとりついでやる。軸を献上しろ」と命じました。ところが志頭磨はなかなか筆をとりません。やいの、やいのと催促した重役は、やっと持ってってきた軸を開いて、まっ赤になって怒りました。なんと軸には、「平」の1字だけ書かれていたのです。「おのれ、將軍さまを愚弄する気か」と、刀に手をかけようとしますが、側にいた幕府の祐筆たちはその見事なできばえに、思わず感嘆の声をあげました。

佐々木 志頭磨

書家。通称七兵衛、号は松竹堂。元和5年(1619)生まれ。藤木敦直門人。志頭磨流の書を創始。元禄8年(1695)没、享年77歳。

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株) ファッションビジネス・御堂筋新聞